

ド変態露出狂
無様羞恥アクメ女





三条玲美

良家に生まれた知性と品性に溢れる女性だったが
変態露出にハマって羞恥マゾの血が目覚めてしまう

それからはどんどん変態行為がエスカレートしていき
どんな事でもするド淫乱女になってしまう



「はーいー！ コートが開帳♡ あはああ♡」
「淫乱露出狂女のだらしないドスケベボディ見て下ささい♡」

「見られてるっ♡」
「最高♡」
「気持ちいいいいいいいい♡」
「ずっと下着着けずにコート一枚で歩いてきたのよ♡♡」

だっ♡

がばあああ

「ほらあ 無様に生えた陰毛もグロマンも全部見てえ♡」
「変態露出恥ずかし過ぎて興奮しちゃう♡♡」

「あはあ♡ 見て見てえ♡ マン汁垂れてきたああああ♡♡」
「変態女だから発情すると汗が止まらなくなるのよお♡」

だー

はあ♡

はあ♡





「マン汁ポタポタ垂れてるう♡ チンポのために汁なのにい♡」
「私のマン汁って牝フェロモンでもものすごく臭いのよお♡」

「もっと近くで見て嗅いでチン棒勃起させてえ♡♡♡」

はぁ♡

はぁ♡

ピュウッ

ポタポタ



「あひっ♡ んひっ♡ これイグっ!! イッちやう♡」
「ド変態だから見られるだけでイッちやうのお♡♡」

「早くチンポ汁とマン汁グチャグチャに混ぜて交尾したい♡」

「イグイグイグイグッ!! 羞恥アクメええええ!!!!!!」

私はガクガクと足を震わせて無様に絶頂し
そのままマン汁を垂らしながら「ヒョコヒョコ」歩き回りました

ガクン
ガクン

おはっ

おっ



今度は尻を向けて最低に下品な腰振りをしながら
毎日の変態オナニーでめくれあがったアナルを見せつけます



「ほら見てえ♡ ケツ穴開きながら踊りまゝす♡♡」
「無様で恥ずかしい変態ケツ振り見て下さいいらい♡♡」



「んおっ！ あひっ！ ふんおっ！ んほおっ！」
「あはああああ♥ 惨めすぎて気持ちいらいら♥♥」



「!!! きもちいいの来るっ! イキそうになるっ!」
「私ド変態だからケツ振りだけでイク事が出来るのぉ♡」



「あひいいい♥ 変態マン汁いっぱい溢れて来たああ♥」
「イグッ！ ケツ振りエアセックスでイグッうううー！」



散々恥をさらしてようやく顔の前に男根が差し出され
私は待ちかねたご褒美に大喜びでしゃぶりつきます



「んおおっ!! チンポッ! チンポオオ♡」

涎を垂らし見るに堪えない変態顔でチンポに吸いつき
ゲーメンを貰うため必死に顔を動かします



「ぶじゆるおおおえつつ♡ じゆるべえええええつつ♡」
「チンポ汁うゝ チンポ汁ぐださいいいいい♡♡」

「うわーうわーうわーうわー... うわーうわーうわー...」
「うわーうわー... うわーうわーうわー...」
「うわー...」



喉の奥に大量のザーメンを流し込まれ呼吸困難になりながらも
全部飲み干して精飲絶頂までキメてしまいました

更に衰れたアクメ面に容赦なく残りの精液を浴びせられます



「んぶばあっ！ まだ出るのおお！！ スゴすぎるっっ♡」
「んああああ♡ この匂い大好きい♡ またイグっっ♡」

「ぷうっ♡濃厚ザーメン最高に美味しかったわあ♡」



「でもお預けマン」が限界なのよあ♡♡」
「今度は交尾っ♡チンポマン」交尾しましよ♡」

「見てえ♡ 今まで何百本もチンポ啜えた便器穴よお♡」
「グロマンの中身もドロドロのグチヨグチヨななお♡」



私は黒ずんだマンピラを思い切り引つ張って
物欲しそうにヒクヒク動く膣内まで全部晒しました

「おおおおっ!! また勝手にマン汁溢れてくるわ♥♥
「膣内で熟成されて牝臭たっぷりの変態汁よお〜♥」



「ほらあ…淫乱マン」の中身も全部見せるからあ♥♥
「チンポおっ! このチンポ挿入用の穴にぶち込んでえ〜♥」

ドロッ

はへ



「お お おう!! んおう!! もうイギネろうっ♡♡」

「おひいいい♡ マン♡お♡ これが欲しかったのおお♡
チンポマン♡最高♡♡♡ 気持ち良すぎるうっ♡♡」

はぁ♡ んっ♡

ガクン
ガクン

「んぎひいいいつ♡脳味噌までザーメン届ぐううう♡」
「イギっぱなしいいい♡変態交尾きぼちいいいい♡」

私は膣出し快楽で最高のアクメを味わいながら
変態露出で昂った淫乱な性欲を満たしていきました



そのまま近くのホテルに連れ込まれると
無様に生えた腋毛も晒して朝まで生ハメです



チンポをハメられ即イキすると狂ったように絶頂し
とにかく快楽を貪るだけの交尾を始めました

「んおおおおおおおおおおおー！ チンポおお♡」



「いがせでえええ♡ もっとイギまくるのにおおお♡」
「あええひいいいー！ チンポきもち良すぎるうう♡」

「あまよおおお おお おおマンゴ おお おおおおおおお♥♥」
「べびらーいんぐおお おお おお おおぐうおううー!!」



あまりの快楽に恥を捨て女として人間として最低の
発情した獣しか出さないようなアクメ咆哮をかまします

「イグっ♡ イグっ♡ イグっ♡ イグっ♡ イグっ♡ イグっ♡」



もう絶頂が何十分も続く状態になってしまいました
こうなってしまうと狂った様に快楽を貪るだけです

ガン♡
ガン♡

「チンポオオオ♥ チンポ汁うらうちようだいいいい♥」
「変態グロマン」どどどどどどどど下さいいい♥♥♥



私はイキ続けながら哀れにサーメンをいの言葉を発しました

いああっ

♥♥

ガクン
ガクン

ズキ



「凄い量おお〜♡♡ イグイグイグイグらうらうら♡♡」

イグイグ

ドビエッ

「ぎやはああああああ♡ ザーメン来るらうらうら♡」
「べひひひひひひ!!! 淫乱マン」で全部飲むのおおお♡」

訳のわからない声を出しながら絶頂マンコに精液を注入され
鼻水や涎を垂らした最低な顔で更なる絶頂へと向かいます



股間からは精液とマン汁が混じった液を漏らして
快楽で理性は吹っ飛び狂ったようにイキ続けました



次の日は裸のまま街に連れ出され見世物にされています
今の私はどんな変態命令でも実行するド淫乱女です



「皆様あゝ変態女の痴態をご覧下さ〜い♡♡」
「私はマン」快樂の事しか頭にありませ〜ん♡♡」



全裸で股を広げながら「ヨロヨロ」歩き周り
ときおり下品に腰をくねらせて無様な姿を晒しています



「あああああ〜小便漏れるうらうら♡♡ 見て下さい♡♡
「はひひひひ♡ 路上で放尿してごめんなさいら〜」



「きもちいい〜放尿アクメまでかましちやうらうらうら
んはぁ♥ イグっ! 恥ずかしすぎるうらうら♥♥♥」

小便を漏らしながらヨロヨロと歩くド変態な姿
私はその痴態を見られて絶頂するまでになりました



私は放尿散歩で散々恥を晒して足が限界になると
近くの公園で極太ティルドを挿入して放置され
アへ顔で涎や鼻水を垂らしながらイキ続けてます





イグッ♡
イグッ♡

「全身イギつばなしい♡ あぎひいいい♡」
「イグイグイギイイ!! わげわがらない♡」

グイン
グイン

先豚

「何も考えられないっ♡ マンコ脳になったあ♡♡」



「はひっ!!?!? なんか来るう!!? マン汁漏れるう♥」
「んぎいいいい!! マンコ」の奥から凄いの出るうう♥」
「イグツツツ!! イグイグイグオオオ!!」

大量潮吹きと共に巨大なデイルドが膣内からひり出され
最後はポーンツと噴射して空中に飛び出してしまいます
私はその凄まじい快感にビクビク震えながら失神しました



今日は昼間から外で全裸になっています
身体中がドスケベの塊のような変態姿です



私はその無様すぎる格好を失笑されながら
下品なガニ股で腰を振りながら豚真似を始めました

「見て下さ〜い♥ 発情中のド変態メス豚で〜す♥」
「フヒッ！ フガッ！ ブホオ！ フゴオ♥」



鼻フックで惨めに歪んだ顔で半笑いになりながら
本物の豚のように鼻を鳴らしてみせます

「これだけでマン汁垂らす羞恥マゾ豚を見てえ♥」
「アハハツ♥ 完全に人として終わってまあくす♥」



そのままマンコを前に突きだすように見せつけ
より無様で激しいメス豚腰振りダンスをします

「イチツ！ ニヒイ！ サアン！ ブシイイ！！」
「ゴホオ！ ブオグ！ ブヒチイ！ ブガハアア！！」



豚真似と混ぜってマトモに数も数えられずに
ただただ下品な発情姿を笑われてしまいました

「ブホツ♥ ブガア♥ マンゴツ♥ マンゴオオ♥」
「んぎっ! マンコの奥からなんか来るううう♥♥」

「ブホオオオオ♥ 豚マンコがイグううう♥」



「マンゴ狂うらうら♥ イグイグイグイグイグ♥♥♥」
「ブギビィィィイグウウオオオオオオオオ♥♥♥」



えげつない声を出しながら腰振りだけでの絶頂
ド変態女しかできない最低のアクメをかましました

「ブキイ♥ もうメス豚マンコ限界ですううう!!!!」
「早く汁漏れマンコにチンポで蓋して下さいいい♥♥」



未だに絶頂快樂が続く中でさらなる快樂を求めて
腰を動かしながら哀れなチンポ乞いを始めました

「牝汁ドロドロ変態豚マンコに極太チンポ下さいい♡」
「お願いしますっ♡ チンポっ！ チンポお！」



鼻水を垂らして女の弱い場所を全て見せながら尻を振る
その姿は下品で最低、それ以下の無様なものでした

「おぎよほおおつ!!! チンポオオオ!!!」
「すみません♡ 雑魚マン」即イキしましたああ♡」

はぎ!!

ズドボッ!!

ハメられて即座に絶頂すると快樂地獄へ堕ちていきます



「ん、おおおつ♡ マン肉もケツ肉もぎもぢいいい♡
「チンポ中毒の変態穴ズゴスゴされてるううううう♡」



「あひああああ〜このまま一生交尾してだいい♡」

ズグ
ズグ!!

んあ、♡

ぢんえ♡

「んぎイグいぐおおお、お、おおオオオがはあああっ♡」
「マンゴおおおオオオおお、お、おおおつつつつ♡♡」



私は絶頂快楽に溺れ獣以下のあえき声で鳴いて
その時の無様なアクメ面は見るに堪えないものでした

イキ狂ってわけもわからず失神してしまった私は
近くの男子便所の床に無様な姿で放置されていました



人が近づいてくるとバカみたいに笑ってピースします

「あはっ♡ 一目中イキ続けてる淫乱バカ女でっす♡」



「私のドスケベな体を便器代わりに使って下さる♡♡」

イキ過ぎて足はガクガクして動かない状態ですが
必死に腰を上下させて股間から汁を撒き散らします



「んっおっ♥ぐほおおお♥♥きもぢいいのぉ♥
「子宮で熟成された変態マン汁出るっうっう♥♥」

「全部漏れるっっっ♡ 小便もどまらないうっっ」

ジョー材ー!!

んおっ♡

おっ♡

「おおおっおっおっあぁ♡ マンコ馬鹿になっただぁ♡」



「ずっとイッてるのおお〜♥ イギっぱなしいいい〜♥♥♥」
「まだイグう〜♥ 脳味噌までマンコになってるうう〜♥♥♥」

ガク
ガク

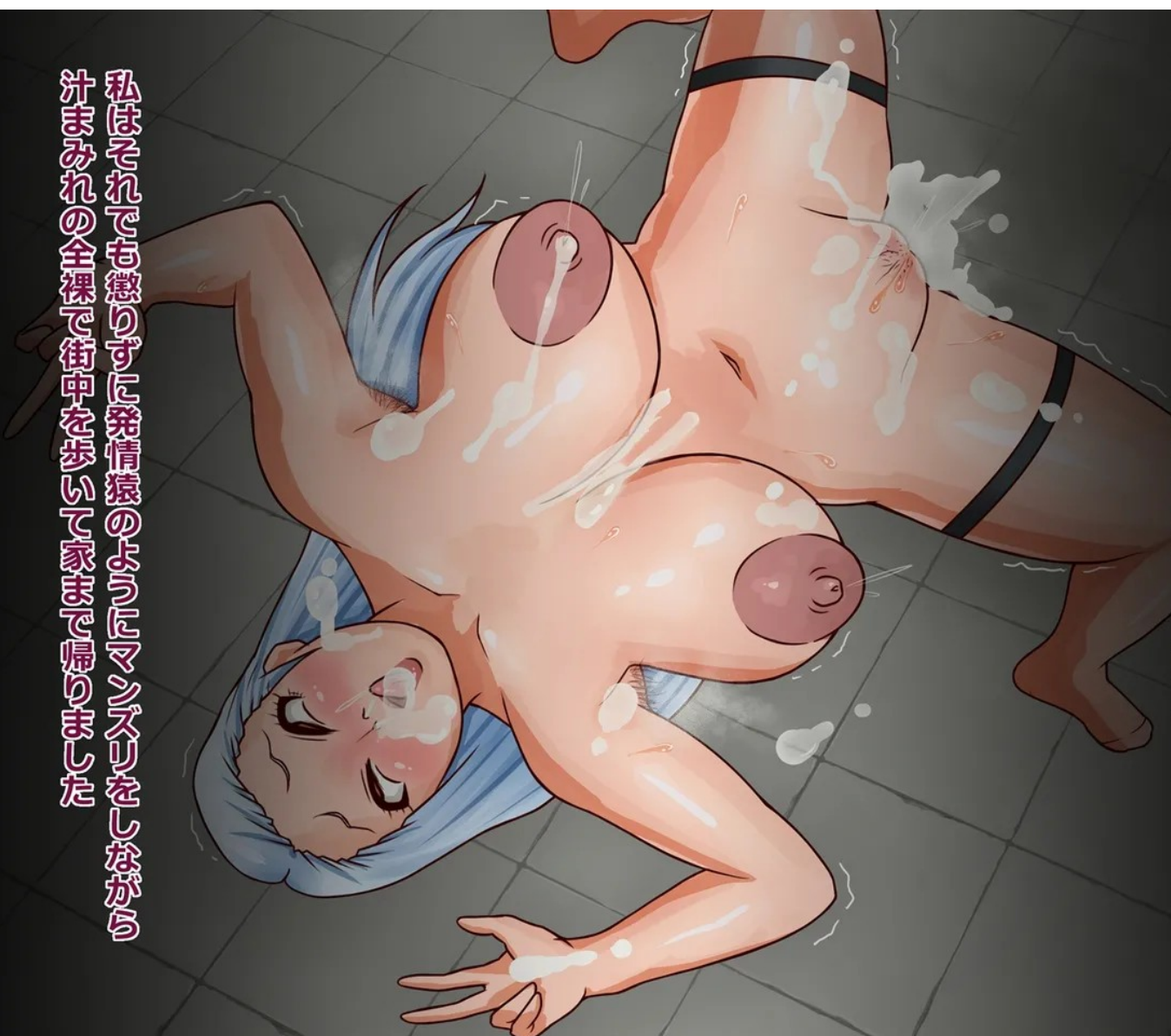
ガク
ガク

ガク
ガク

「んっあぁっ..... イッ.....グあ.....」



最後にはその公衆便所で無様に絶頂失神してしまい
朝まで便器の代わりに精液や小便まで浴びせられました



私はそれでも懲りずに発情猿のようにマンズリをしながら
汁まみれの全裸で街中を歩いて家まで帰りました

おまけ

ビッチ黒ギャル化

「イエイッー！ 露出狂マン「晒」ジョリチドスッ♡」
「ヤリ過ぎのグロマンを笑う者として下をさら♡♡」

ダッー

はぁ♡
はぁ♡





「変態姿見られて興奮するバカ女だからもっと思えてえ♡」
「あ、おっ！ 我慢できねっ♡ イグイグイグイグっ♡」

はへえ♡

い♡

ガクン
ガクン

ピュッ
ピュッ



「勃起チンポゲット♡♡ ハイ、精液絞り開始♡♡」



イカッ♡
イカッ♡
イカッ♡
イカッ♡

ドビュッ
ガクン
ガクン

「もっごもっ腰抜けるまでチンポマン」するのぉ♡♡
「んおおおおっ！ー！！ イグイグイグイグイグイグー！」

「小便漏れるっっっ」
「コクミんが持ひさささ」

ピク
ピク

はぁ♡

はぁ♡

「アへエ〜♡
イキ晒し便器使つてええ♡♡」



「ザーメン最高！ ヤベっ！ イグの止まらねえっ♡♡」



ガク
ガク

ガク
ガク

ガク
ガク

「あがぁー♡ 変態マンコ脳がイグら.....」





































































































































